

手燭形土製品の新資料と千葉県内の出土例について

蜂屋 孝之

1. はじめに

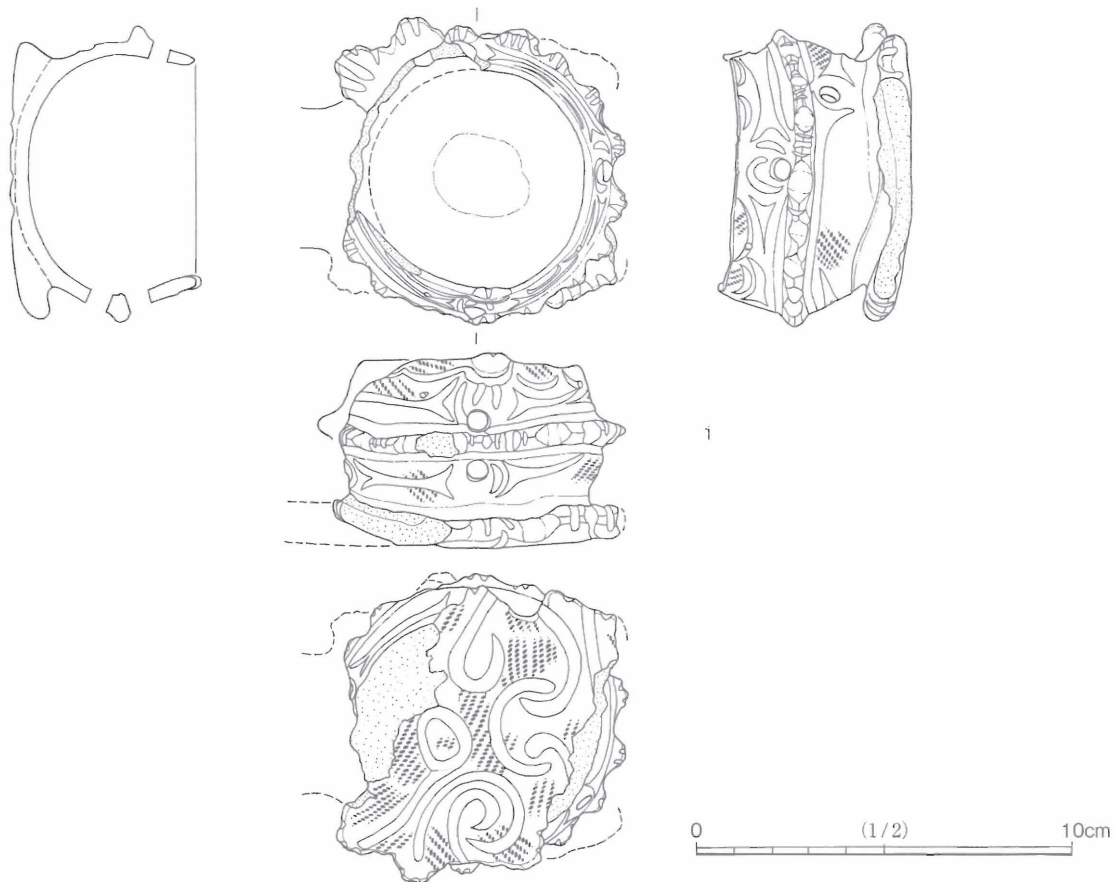
手燭形土製品は縄文時代後期後葉に現れる土製品である。今のところ千葉県内から最も多く出土しており、拙稿では15遺跡から手燭形土製品が出土していることを確認している¹⁾。今回は千葉県佐倉市内の遺跡から出土した新資料の紹介とともに既報告で手燭形土製品の可能性が高い土製品なども加えて改めて千葉県内の手燭形土製品のあり方について見てみることにしたい。

新たに紹介する資料は、千葉県佐倉市坂戸に所在する坂戸草刈堀込遺跡から出土した手燭形土製品であ

る。地主の岩井明氏が遺跡の所在する畑で耕作中に発見したもので、岩井氏の承諾をいただきここに報告する次第である。

2. 坂戸草刈堀込遺跡

さかどくさかりほっこみ
坂戸草刈堀込遺跡は、佐倉市坂戸字草刈堀込1614番地ほかに所在し、四街道市との市境に近く印旛沼南岸に流れ込む鹿島川中流域左岸の標高33m前後の台地に立地している。本遺跡について最も詳しく言及したのは高橋誠らの論考であろう²⁾。これによれば、本遺跡についての最も古い記述は、早稲田大学考古学研究室



第1図 坂戸草刈堀込遺跡

が主力となって行った調査報告『印旛手賀』の記載であるという³⁾。その後佐倉市教育委員会の2度の分布調査で多量の遺物が採集されている⁴⁾。本遺跡の出土遺物が具体的に図で紹介されたのは高橋建一による報告である⁵⁾。本稿で紹介する手燭形土製品の採集者である岩井明氏と子息岩井政晃氏が畑から発見した遺物の一部を紹介している。縄文土器のほか石剣や石棒、ヒスイなどの玉類が紹介されている。高橋誠らの論考と同じ年に阿部芳郎らによって本遺跡の採集品の紹介と「中央窪地集落」としての特徴に言及した報告が出されている⁶⁾。高橋誠らは本遺跡から発見され東京湾岸からもたらされたと見られる鹹水産貝種を主体とする晩期貝層の分析をもとに「縄文流通網」とも言うべき生活物資供給に関するネットワークがすでに中期後半段階には構築され、整備されながら晩期前半まで継承された事をこの貝層が示しているとしている。また、これまでに得られた知見をもとに本遺跡について以下のような特徴を挙げ「拠点集落」として認識すべき遺跡であるとしている。

- 1) 中央に遺物のほとんど散布しない窪地を有し、周囲にはおおむね対弧状に盛土状遺構が存在する。
- 2) 遺跡の時期は、中期末葉～安行3c式期とみられ、加曾利B式後半から安行式を中心とする。
- 3) 遺跡全体で、貝は極めて微量の散布しか認められない。採集された貝類はほぼ鹹水産である。
- 4) 貴石珠類が採集されている他、石棒、土偶、土版などが多数採集されている。

以上のように本遺跡は発掘調査は行われていないが後期から晩期の拠点集落に足る遺跡であり、印旛沼南岸域の当該期集落の中でも重要な位置を占めているのではないかと考えられる。岩井氏とともに訪れた本遺跡の景観は、現在でも「盛土遺構」と中央の窪地との起伏が明瞭であり、「拠点集落」を実感させる遺跡である。

3. 本遺跡出土品

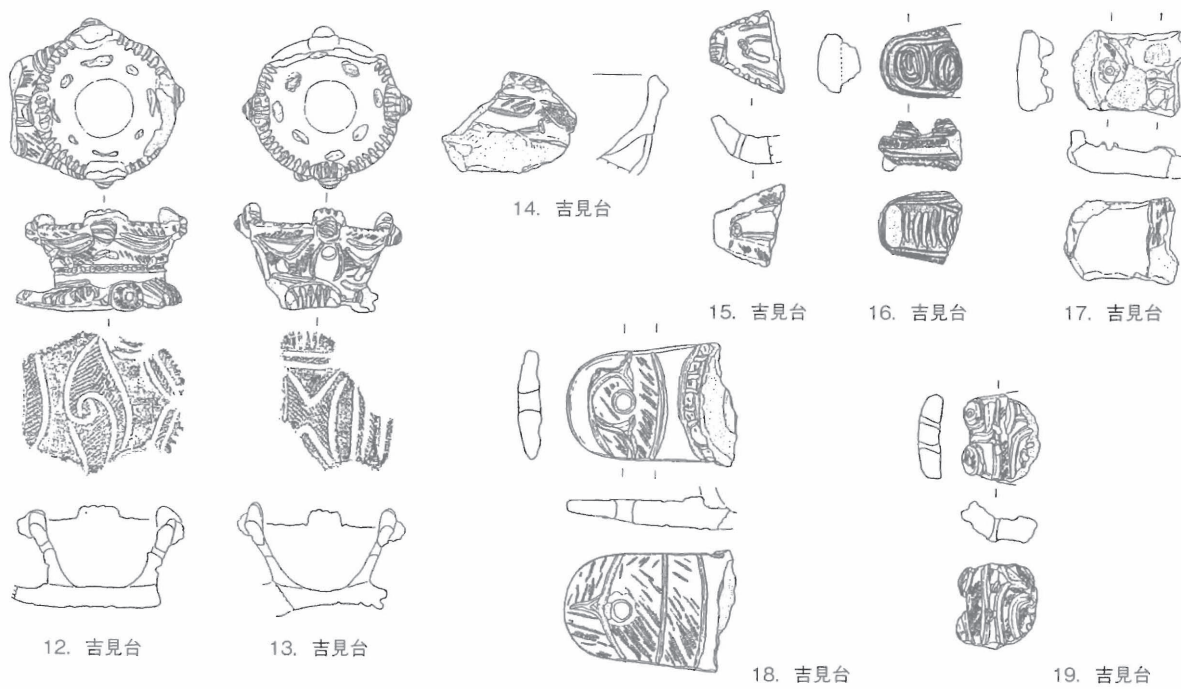
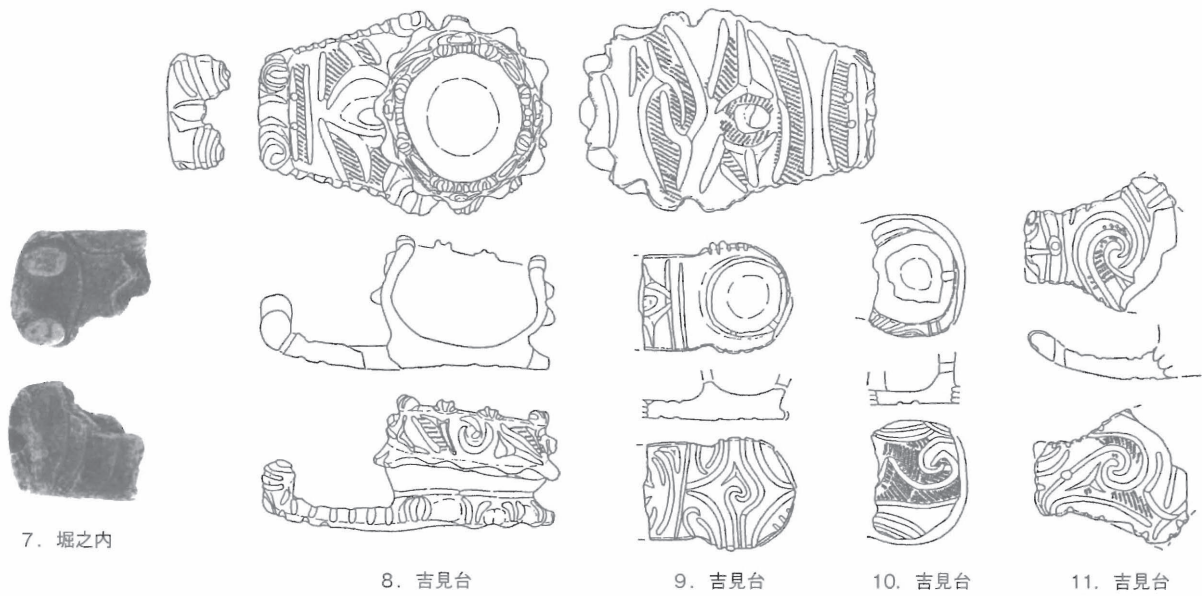
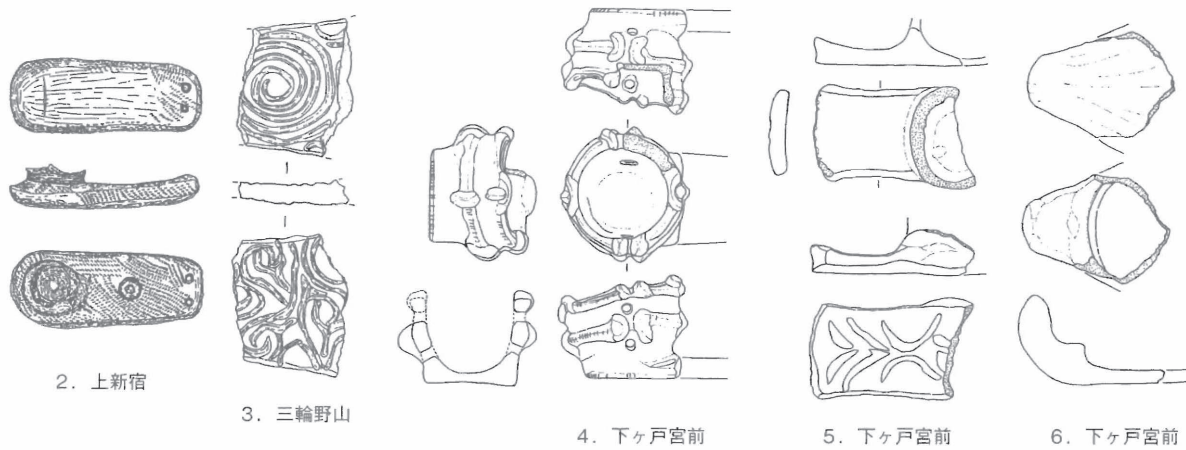
出土状況は、岩井氏が農作業用の穴を掘っていた最中に出土したという。堅穴住居などの遺構の存在が予想されるが、立川ロームに至るほどの深さまで掘り込まずに出土しているらしく、遺構の有無を判断することも難しい。そのためここでは包含層からの出土としておきたい。

第1図に出土資料を示した。概観は異形台付土器末期の上半部の器形を彷彿とさせるもので、底部など

3か所に欠損がある。底部のうち大きく欠損した方の状態から板状の把手が伴っていたと思われ、この出土品が手燭形土製品の器部であると判断される。器高は5.0cm、器部の最大幅は7.9cmである。器厚は3mm程度しかなく全体に薄くて軽い。器部外面は中段に突帯状に並ぶ小突起によって上下に文様帯が二分されている。上段には直径5.5mmの貫通孔が三方にあり、他の出土例から欠損部分にも孔が伴い十字方向に4つの孔が開いていたのではないかとと思われる。また下段にも貫通孔が施されるが、一側面のみ上下段の孔が揃うだけで他の孔は上段の孔と揃っていない。欠損している部分の下段には貫通孔が伴わない可能性が高く、下段は三方のみの孔となるらしい。上下段とも貫通孔を挟む沈線の三叉文を配しており玉抱きの三叉文となっている。口縁は薄く、左右にキザミを施した小突起を貼り付けている。口縁直下に弧線を配し、各弧線に合わせて口縁が若干の波状となるようである。上段の文様帯には小さな刺突文が2つ単位性もなく施文されている。口唇には僅かなキザミが伴っているらしいが器面が若干荒れているため定かでない。地文にRLの単節縄文が施されている。底面にも文様が施されている。RLの単節縄文を地文とし入組文的な沈線文を雑に施している。焼成は良いが口縁部の一部に黒斑が認められる。この黒斑は二次的な使用痕ではなく焼成時の炭素吸着ではないかと思われる。器部内面はミガキではないが丁寧に調整されている。使用痕と思われる痕跡は認められない。欠損面から製作手順が窺える。器部を製作した後、台部となる板状の粘土に接合している。把手部については台部と一体で作っているのか、台部に別の粘土板を接合しているのかはわからない。この手燭形土製品の時期は、安行3a式と考えられるが、底面の文様は雑であり安行3a式でも新しい段階ではないかと思われる。安行3a式期は、手燭形土製品の最盛期と考えられ装飾性に富むものが最も多く、本遺物もその一つに数えられる。

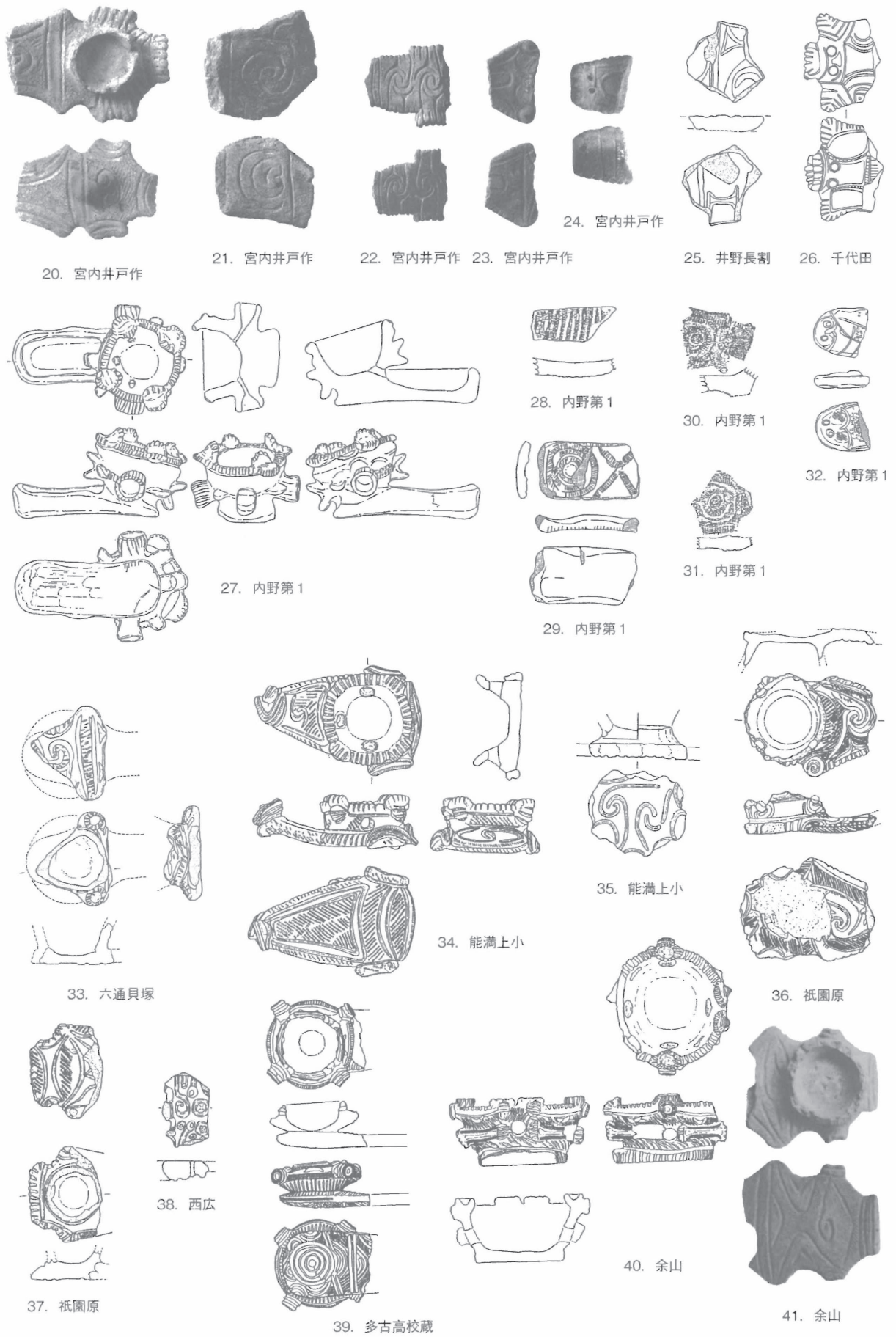
4. 千葉県内の出土例

拙稿において確認した千葉県内の手燭形土製品は15遺跡39例であった。今回改めて見てみると前回気付かなかった報告例のほか、改めて報告書にあたってみて土版などの土製品として報告されているが手燭形土製品の可能性が高いものなどが数例認められた。これらを含めると、22遺跡50例の出土例が挙げられる（一覧表参照）。今回追加資料として掲げたものについて



(写真は縮尺任意)

第2図 千葉県内資料1 (S=1/4)



20. 宮内井戸作

21. 宮内井戸作

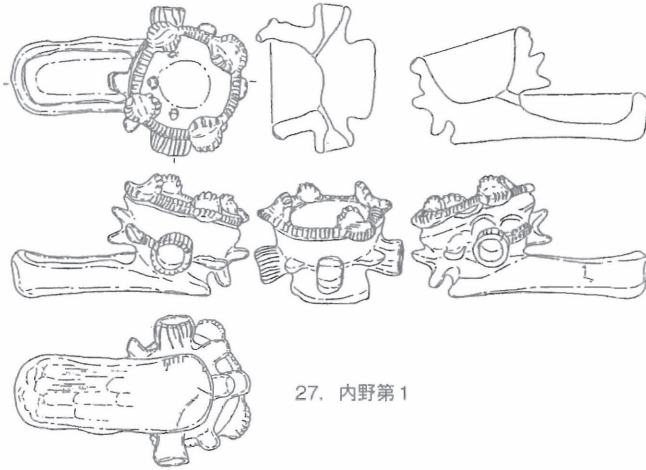
22. 宮内井戸作

23. 宮内井戸作

24. 宮内井戸作

25. 井野長割

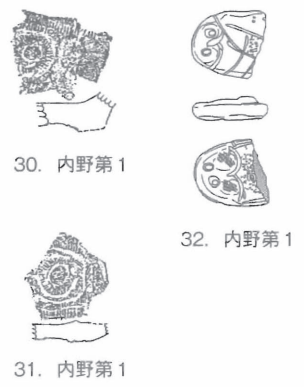
26. 千代田



27. 内野第1

28. 内野第1

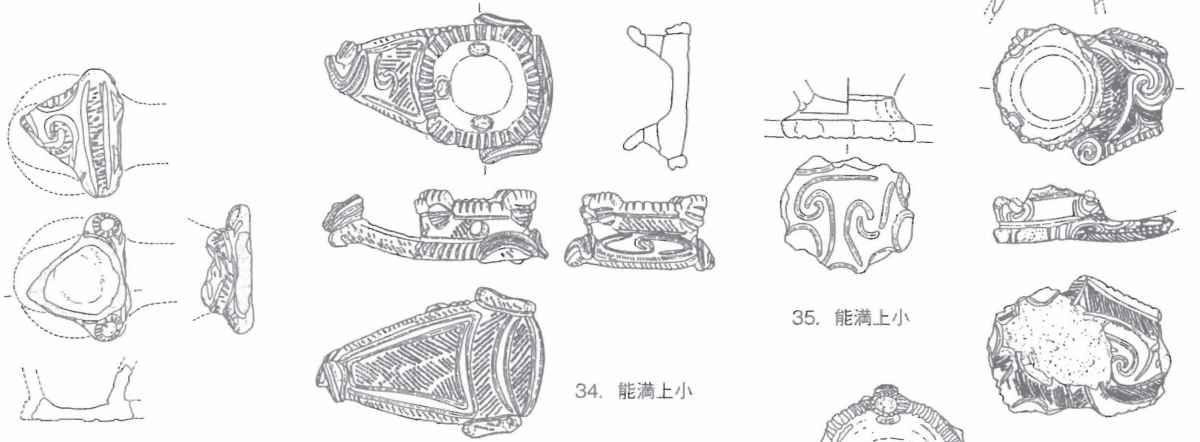
29. 内野第1



30. 内野第1

31. 内野第1

32. 内野第1



33. 六通貝塚

34. 能満上小

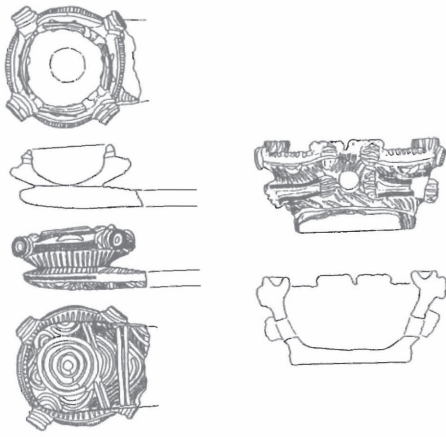
35. 能満上小

36. 祇園原



37. 祇園原

38. 西広



39. 多古高校蔵

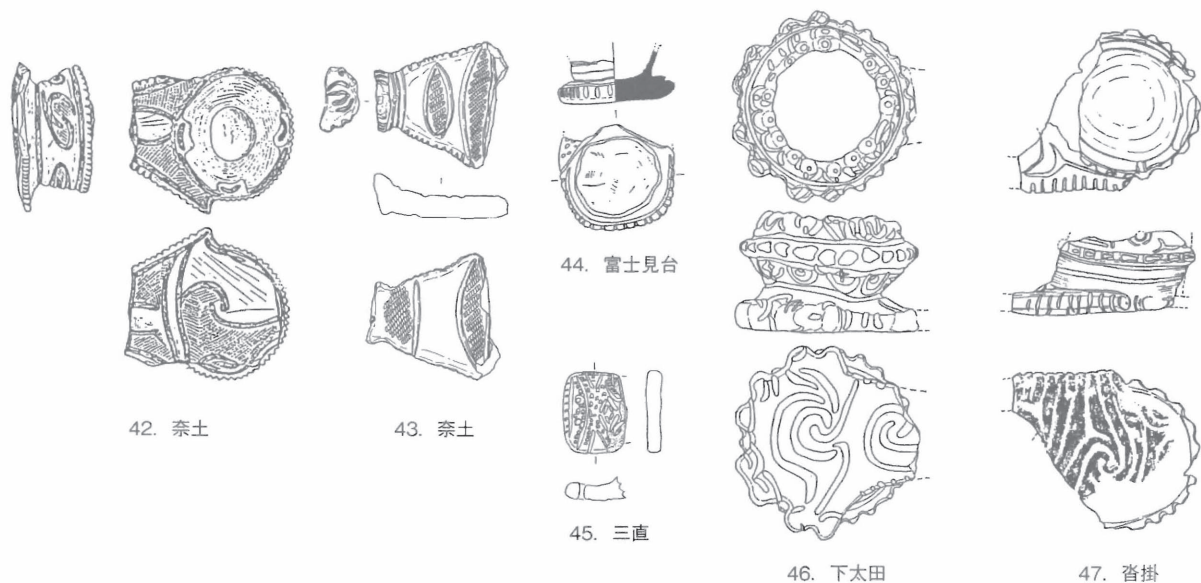
40. 余山



41. 余山

(写真は縮尺任意)

第3図 千葉県内資料2 (S=1/4)



第4図 千葉県内資料3 (S=1/4)

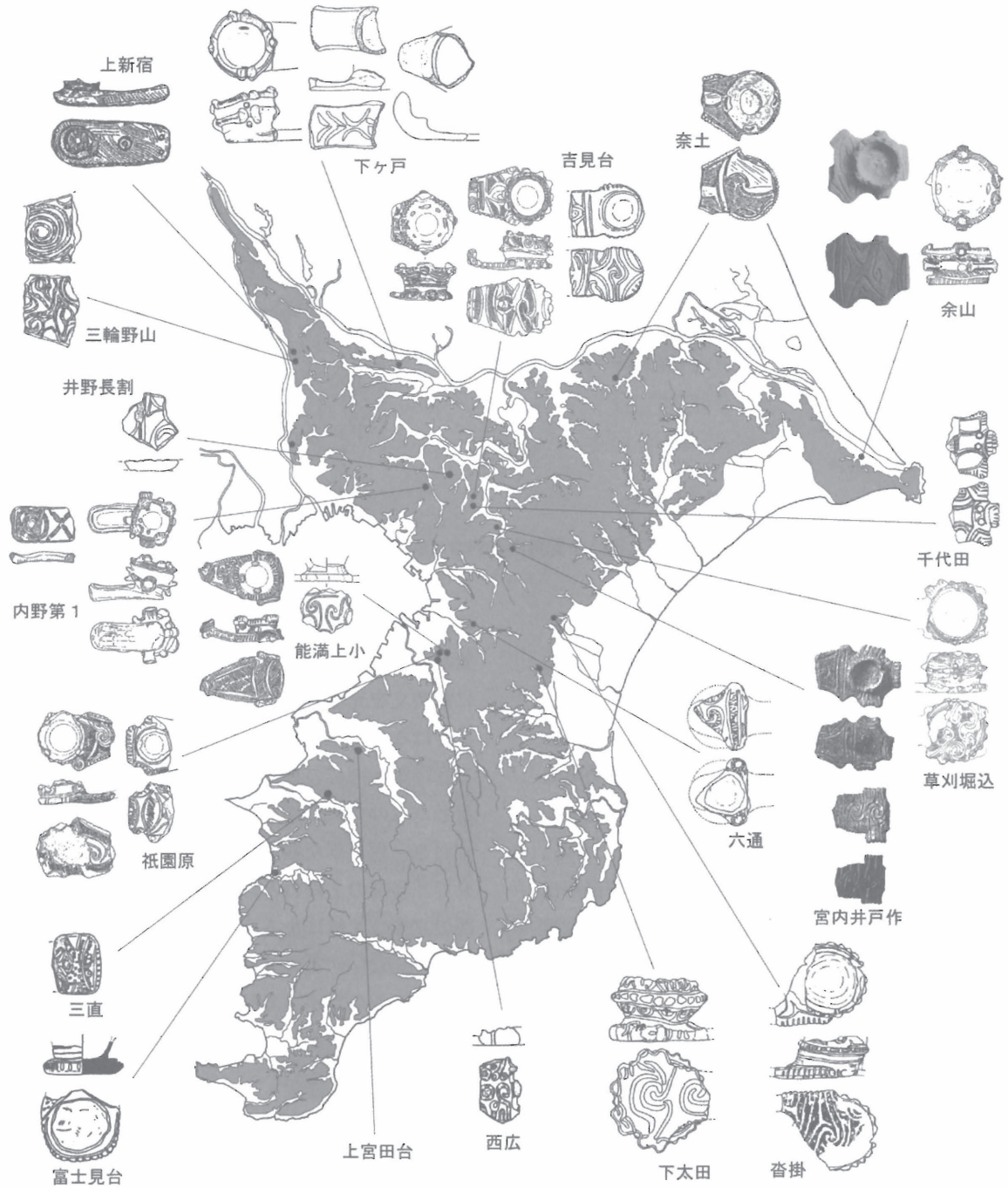
若干ふれてみることにする。

第2図7の堀之内貝塚出土例は把手部のみである。端部に2つの突起を伴っている。沈線文を主体とし装飾性には乏しい。時期は安行3a～3b式であろう。第3図26の千代田遺跡例は土版として報告されているもので、安行2式に見られる突起を伴い2つの貫通孔がある。手燭形土製品の把手部ではないかと思われる。内野第1遺跡の報告によれば5例の手燭形土製品が出土しているが、土版として報告されている第3図32は表裏に沈線文と縄文が施され、2つの貫通孔がある。横幅が狭く手燭形土製品の把手部の可能性が高い。第3図33は六通貝塚出土で、発掘調査による最新資料である。台部底面の文様は、平行沈線と入組文となる沈線文が施されており沈線間に雑な刺突文が密に施されている。把手の接合部左右に耳飾りの様な円環状の装飾があり、安行3a式の手燭形土製品には類似した装飾をもつものがある。ただ縄文の施文がなく刺突文が充填されることから安行3b～3c式の可能性が高いと思われる。奈土貝塚からは手燭形土製品が2例出土しており、第4図42は昭和32年の調査によって出土したもの、43は平成8年に行われた確認調査で出土したものである。43は前回見落としていたものである。把手部のみで表裏には向かい合う弧線文を施し、内部に縄文を充填している。側縁にはキザミが施されている。時期は、先に出土している42とほぼ同時期の安行3a式であろう。43に類似した把手部は東京都板橋区中台から出土している⁷⁾。第4図44の三直貝塚例は土偶の

可能性があるものとして報告されているが、手燭形土製品の把手部と思われる。沈線を密に施し、沈線間に刺突文を充填している。2つの貫通孔がある。突起などはなくやや装飾性に乏しい。安行3b～3c式であろう。第4図47の沓掛貝塚例は、昭和60年の調査で出土したものである。器部、台部と把手の一部が遺存しており、坂戸草刈堀込遺跡例に類似した形態と文様構成で、器部の上段のみに貫通孔が伴うようである。台部の文様は沈線による入組文と三叉文で、縄文は施文されていない。時期は安行3b式であろう。このほか未報告のものだが、当財団が調査した袖ヶ浦市上宮田台遺跡から安行3a～3c式と思われる手燭形土製品が3例出土している。

5. 時期と分布

千葉県内の出土例のうち最も古い手燭形土製品は第2図4の下ヶ戸宮前遺跡例である。安行1式の段階で異形台付土器から派生して一器種として独立するらしい。今のところ同時期の類例はない。やはり数量的に見られるようになるのは安行2式からである。第3図27の内野第1遺跡例や第3図39の多古高校蔵の出土例、第3図40の余山貝塚例などはこの時期の代表例である。この時期の手燭形土製品の器部は、異形台付土器の注口部と口縁部が合体した形態に類似しており、独自の形態に脱皮しきってはいない。高台が付けば異形台付土器そのものである。晩期安行3a式になると全体に装飾性に富み、把手部の形態も器部に対して安



第5図 手燭形土製品の分布

定したものとなる。第2図8・12・13の吉見台遺跡例や第3図34の能満上小貝塚例、第3図36の祇園原貝塚例、第3図41の余山貝塚例などが代表例である。今回紹介した坂戸草刈堀込遺跡例もこの時期に含まれる。安行3b式以降になると縄文施文がほとんどなくなり、沈線文を主体とするものになり、さらに無文化していくようである。第4図46の下太田貝塚例や第4図47の沓掛貝塚例などは縄文を伴わず沈線文もやや雑な感があり安行3a式～3b式への過渡的な様相を示

すのではないと思われる。第2図5の下ヶ戸宮前遺跡例や第3図29の内野第1遺跡例、第3図35の能満上小貝塚例などは安行3b式～3c式とみられ装飾性が次第に衰えていく様相を示している。最も新しい時期のものとしては第2図3の三輪野山貝塚例が挙げられ、安行3c式～3d式と思われる。今のところ終末期の様相についてはよくわからないが、おそらく安行式の終焉とともに手燭形土製品も消滅していくのであろう。

分布のあり方は、安房・夷隅地域をのぞいた地域か

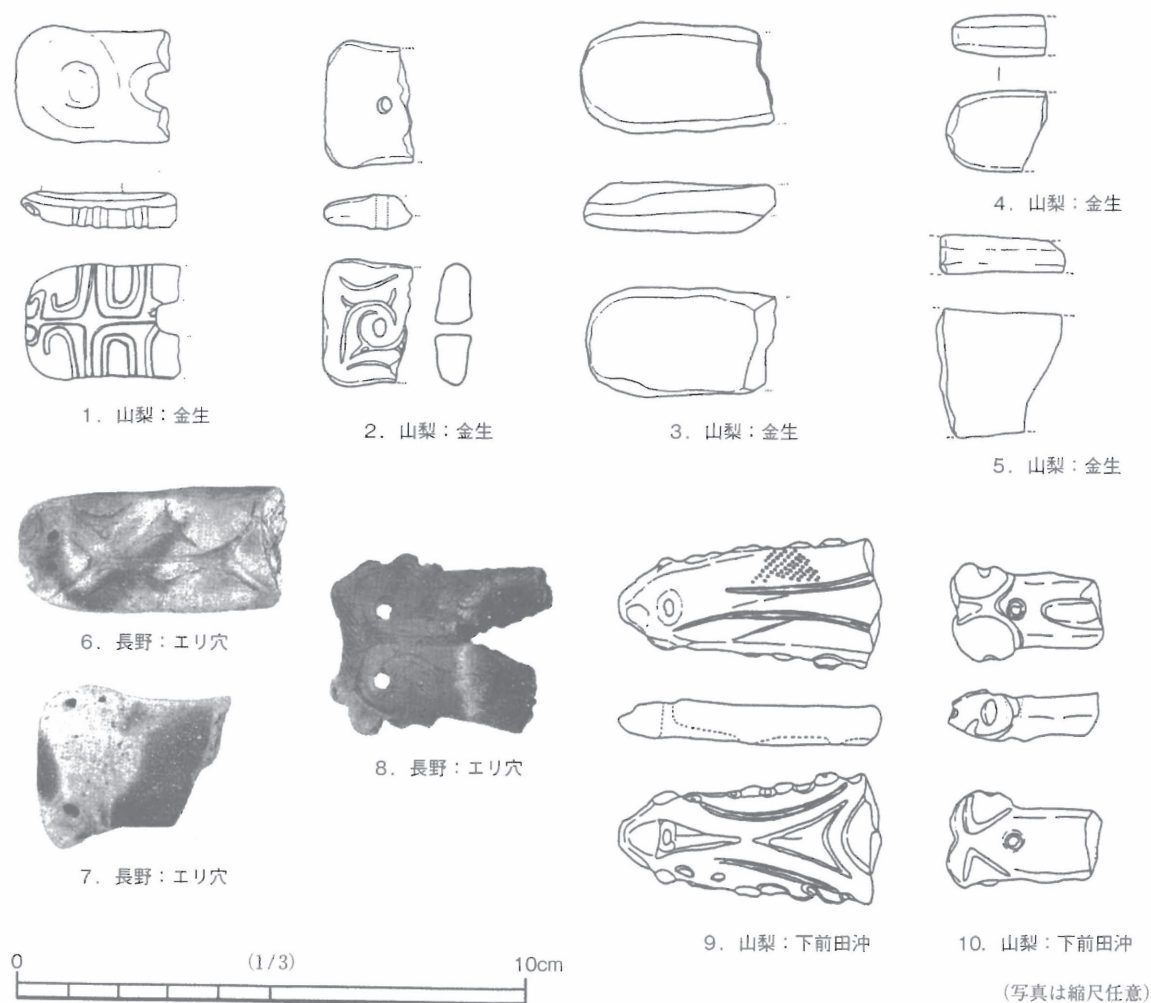
ら出土している。分布が密なのは千葉県北西部から東京湾岸域である。関東一円の出土状況においては埼玉県東部、栃木県南部、茨城県南西部を含んだ利根川中流域の分布が密であり、千葉県北西部はその密な地域に含まれる。この状況は、後期の釣手土器や異形台付土器の分布とも重なっており⁸⁾、これら一群の特殊な土器を使用した儀礼がこの地域で盛んに行われ、長期にわたって継承されていたことを示している。

6. おわりに

以上千葉県内の手燭形土製品について見てきた。今のところ千葉県内からの出土例が最も多く、その系譜を辿る手がかりも豊富であり、今後も資料の増加が期待できる。吉見台遺跡からは多数の手燭形土製品が出土しており、特殊な遺物を盛んに製作している集落が存在する可能性があるが、遺跡によって調査面積に大きな違いがあることから、出土点数を単純に比べることは難しいだろう。しかし、手燭形土製品などの特殊

な遺物も集落ごとに製作や保有のされ方に違いがあると思われ、集落を特徴づける要素の一つとして見逃すことはできない。

前回の集成では、1都6県の関東一円から出土例が認められ、その他の地域では管見に触れる限りでは見あたらなかったため、関東に限られているのではないかと考えていた。しかし、甲信地域においても出土例があることをその後ご指摘いただいた。山梨県北杜市(旧北巨摩郡大泉村)金生遺跡からは確実なものが2例、手燭形土製品の可能性があるものを含めると5例が出土している⁹⁾。また長野県松本市エリ穴遺跡、同県上田市下前田沖遺跡からも手燭形土製品と思われる土製品が出土しているという¹⁰⁾。参考に第6図にこれらの出土例を示した。これらはいずれも晩期前半の時期と思われる。山梨県北杜市(旧大泉村)姥神遺跡¹¹⁾や長野県松本市エリ穴遺跡¹²⁾、同県大町市一津遺跡・大崎遺跡¹³⁾などから異形台付土器が出土していることから、異形台付土器が終焉を迎える後期末以



第6図 山梨・長野の出土例

後に手燭形土製品が普及するのではないかと考えられる。

東北地方では管見に触れる限り手燭形土製品の出土例は今のところ見られない。しかし、東北地方はもとより北海道南部まで異形台付土器が波及しており¹⁴⁾、異形台付土器の流れを汲むと考えられる手燭形土製品が異形台付土器の後を追って東北地方で受容されていたとしてもおかしくはない。今後東北地方の土版などの土製品の中に手燭形土製品が含まれていないか注意していきたいところである。

最後に今回手燭形土製品の紹介を快諾いただいた地主の岩井明氏には、記して御礼申し上げます。手燭形土製品のみならずこれまでに採集された様々な遺物についても氏の自宅で実見させていただきました。また坂戸草刈堀込遺跡まで案内してくださり、遺物を採集した時の状況や盛土遺構、さらに周辺の遺物の散布状況などについて詳しく説明していただき、この遺跡の重要性を改めて認識した次第です。坂戸草刈堀込遺跡の出土遺物について最初にご教示いただいたのは小林清隆氏でした。小林氏からも貴重なご意見をいただいたほか新たな出土例などについて新津健氏、島田哲男氏、安井建一氏、西野雅人氏、西川博孝氏に協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

注

- 1) 蜂屋孝之 2006「手燭形土製品考」『先史考古学研究』10号 阿佐ヶ谷先史学研究会
- 2) 高橋 誠・林田利之・小林園子 2001「縄文集落の領域と「縄文流通網」の継承～佐倉市坂戸草刈堀込遺跡発見の晩期貝層から～」『研究紀要』2 (助)印旛郡市文化財センター
本遺跡のよみがなは上記の高橋誠らの文献によっている。千葉県教育委員会のインターネットサイトによる本遺跡名は「さかとくさかりほっこみ」遺跡となっている。
- 3) 滝口 宏編 1961『印旛手賀』早稲田大学出版部
- 4) 佐倉市教育委員会 1974『遺跡分布調査報告書6』
佐倉市教育委員会 1984『千葉県佐倉市埋蔵文化財分布地図』
- 5) 高橋建一 1984「千葉県佐倉市坂戸草刈堀込遺跡出土の遺物」『奈和』第22号 奈和同人
- 6) 阿部芳郎 2001「佐倉市草刈堀込遺跡と縄文晩期の集落景観」『貝塚博物館紀要』第28号 千葉市立加曾利貝塚博物館
- 7) 板橋区史編さん調査会 1995『板橋区史 資料編1 考古』板橋区
- 8) 蜂屋孝之 2004「縄文時代後期の釣手土器」『先史考古学研究』第9号 阿佐ヶ谷先史学研究会・堀越正行 1996「異形台付土器と土偶の背景」『土偶研究の地平「土偶とその情報」研究論集(1)』「土偶とその情報」研究会編
- 9) 新津健氏教示。山梨県教育委員会 1989『金生遺跡Ⅱ(縄文時代編)』

- 10) 島田哲男氏教示。
- 11) 大泉村教育委員会 1987『姥神遺跡』
- 12) 松本市教育委員会 1997『エリ穴遺跡』松本市文化財調査報告No.127
- 13) 島田哲男氏教示。
- 14) 小樽市手宮遺跡や同市忍路土場遺跡などから出土している。

出土一覧表注

- 注1 上川名昭ほか 1966「千葉県上新宿貝塚発掘略報」『日本大学第三高等学校研究年報』11号・上川名昭編 1993『古代学論叢』創刊号 生田古代学会
- 注2 大内千年 2001『主要地方道松戸野田線住宅地関連埋蔵文化財調査報告書』(助)千葉県文化財センター
- 注3 蜂屋孝之 2006「手燭形土製品考」『先史考古学研究』10号 阿佐ヶ谷先史学研究会
- 注4 市立市川考古博物館 1992『堀之内貝塚図譜』市立市川考古博物館研究調査報告第5集
- 注5 小林謙一ほか 1983『佐倉市吉見台遺跡発掘調査概要Ⅱ』佐倉市遺跡調査会
- 注6 林田利之 2000『吉見台遺跡A地点』財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第159集
- 注7 小倉和重 2003『宮内井戸作遺跡発掘調査概報』財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第200集
- 注8 小倉和重 2004『井野長割遺跡(第5次)』佐倉市
- 注9 米内邦雄ほか 1972『千代田遺跡』四街道千代田遺跡調査会
- 注10 田中英世ほか 2001『千葉市内野第1遺跡発掘調査報告書』(助)千葉市文化財調査協会
- 注11 西野雅人 2007『千葉東南部ニュータウン37-六通貝塚-』(助)千葉県教育振興財団
- 注12 忍澤成規 1995『市原市能満上小貝塚』財団法人市原市文化財センター
- 注13 忍澤成規 1999『祇園原貝塚』上総国分寺台遺跡調査報告Ⅴ 市原市教育委員会
- 注14 鷹野光行 1977『西広貝塚』上総国分寺台遺跡調査報告Ⅲ 上総国分寺台遺跡調査団編
- 注15 小林謙一 1986「多古高所蔵の異形第付土器及び手燭形土製品について」『東邦考古』第11号 東邦考古学会
- 注16 西村正衛 1958「千葉県香取郡奈土貝塚発掘調査報告書」早稲田高等学院歴史研究部
- 注17 黒沢哲郎ほか 1997『大柴町内遺跡発掘調査報告書-奈土貝塚遺跡・久井崎Ⅱ遺跡-』大柴町教育委員会
- 注18『余山貝塚資料図譜』1986 國學院大學考古学資料館
- 注19 吉野真如 2004「土製品・石製品収集資料」『千葉県の歴史 資料編 考古4』千葉県
- 注20 相山林継・金子裕之 1972「千葉県富士見台遺跡の調査」『考古学雑誌』第58巻第3号
- 注21 吉野建一 2006『東関東自動車道(木更津・富津線)埋蔵文化財調査報告書7-君津市三直貝塚-』(助)千葉県教育振興財団
- 注22 菅谷通保 2003『千葉県茂原市下太田貝塚』総南文化財センター調査報告第50集
- 注23 三浦和信 1987『杓掛貝塚-一般県道大網停車場丘山線事業地内埋蔵文化財調査-』(助)千葉県文化財センター
- 注24 (助)千葉県教育振興財団において整理中

千葉県出土手燭形土製品一覧表

No	所在地	遺跡名	個体数	挿図番号	時期	出土遺構等	遺存部位	報告名称	文献等
1	佐倉市坂戸	坂戸草刈堀込遺跡	1	第1図1	安行3a	包含層	器部	-	-
2	流山市上新宿	上新宿貝塚	1	第2図2	安行3a～3b	包含層	器部欠損	-	注1
3	流山市三輪野山	三輪野山貝塚	1	第2図3	安行3c～3d	包含層	把手部	手燭形土製品	注2
4	我孫子市下ヶ戸	下ヶ戸宮前遺跡	1	第2図4	安行1	006号住居跡	器部	-	注3
			2	第2図5	安行3b～3c	005号住居跡	一部欠損		
			3	第2図6	安行3b～3c	包含層	一部欠損		
5	市川市北国分町	堀之内貝塚	1	第2図7	安行3a～3b	採集品	把手部	手燭形土製品	注4
6	佐倉市吉見	吉見台遺跡	1	第2図8	安行3a	包含層	完形	手燭形土器 (手燭形土製品)	注5
			2	第2図9	安行3a	包含層	台部		
			3	第2図10	安行3a	包含層	台部		
			4	第2図11	安行3a	包含層	器部		
		吉見台遺跡 (A地点)	5	第2図12	安行3a	包含層	器部	手燭形土器	注6
			6	第2図13	安行2～3a	包含層	器部		
			7	第2図14	安行3a	包含層	器部		
			8	第2図15	安行3a～3b	包含層?	把手部		
			9	第2図16	安行3a～3b	包含層?	把手部		
			10	第2図17	安行3a～3b	包含層	把手部		
			11	第2図18	安行3a	包含層	把手部		
			12	第2図19	安行3a	103号土坑	把手部		
7	佐倉市宮内	宮内井戸作遺跡	1	第3図20	安行2～3a	包含層	把手部	手燭形土器	注7
			2	第3図21	安行3a～3b	262号土坑	把手部		
			3	第3図22	安行3a	118号住居跡	把手部		
			4	第3図23	安行2～3a	包含層	把手部		
			5	第3図24	安行2～3a	表採	一部欠損		
8	佐倉市井野	井野長割遺跡	1	第3図25	安行3a～3b	包含層	把手部	手燭形土器	注8
9	四街道市物井	千代田遺跡	1	第3図26	安行2	包含層	把手部	土製品	注9
10	千葉市花見川区宇那谷町	内野第1遺跡	1	第3図27	安行2	J-114号住居跡	完形	手燭形土器	注10
			2	第3図28	安行3b～3c	J-97号住居跡	把手部		
			3	第3図29	安行3b～3c	J-35号住居跡	把手部		
			4	第3図30	安行3b～3c	J-76号住居跡	把手部		
			5	第3図31	安行3b～3c	J-76号住居跡	把手部		
			6	第3図32	安行3a～3b	包含層	把手部	土版	
11	千葉市緑区おゆみ野	六通貝塚	1	第3図33	安行3b～3c	包含層	器部	手燭形土製品	注11
12	市原市能満	能満上小貝塚	1	第3図34	安行3a	11号住居跡	完形	手燭形土器	注12
			2	第3図35	安行3b～3c	攪乱層	台部	-	
13	市原市根田	祇園原貝塚	1	第3図36	安行3a	包含層	器部	手燭形土器	注13
			2	第3図37	安行2～3a	包含層	器部		
14	市原市西広	西広貝塚	1	第3図38	安行3b～3c	包含層	把手部	垂飾か	注14
15	香取郡多古町多古高校蔵	不明	1	第3図39	安行2	-	器部	手燭形土製品	注15
16	成田市奈土(旧大栄町)	奈土貝塚	1	第3図40	安行2～3a	包含層	器部	小型土器	注16
			2	第3図41	安行3a	包含層	把手部	手燭形土器	注17
17	銚子市余山町	余山貝塚	1	第4図42	安行3a	包含層	台部	手燭形土器	注18
			2	第4図43	安行2	包含層	器部	手燭形土器	注19
18	富津市湊富士見台	富士見台遺跡	1	第4図44	安行3a～3c	包含層	台部	土製品	注20
19	君津市三直	三直貝塚	1	第4図45	安行3b～3c	包含層	把手部	土偶	注21
20	茂原市下太田	下太田貝塚	1	第4図46	安行3a～3b	包含層	器部	手燭形土器	注22
21	大網白里町金谷郷	杵掛貝塚	1	第4図47	安行3b	包含層	器部	手燭形土器	注23
22	袖ヶ浦市上宮田	上宮田台遺跡	3	-	安行3c～3d	包含層	器部	-	注24